

京都・山科区 ●副作用のないがん治療を目指して全力で患者と共にがんと闘う

がん撃退の力、ギは免疫力と抗酸化力!

医療法人社団 貴正会
村上内科医院

院長 村上 正志 医博

ルネサンス
'16 医療

がんに対する三大治療（手術、抗がん剤、放射線）は副作用も高く、患者は苦痛に苦しめ、時には生活の質を落とさざるを得ない。これに対して苦痛、副作用のない治療を目指している医者がいる。京都市山科区にある村上内科医院の村上正志院長に話を聞いた。キーワードは抗酸化物質と免疫力である。



(米国のデザイナーフーズ・プログラムより)
ピラミッドの上位にあるものほどがん予防効果が高いと考えられている。

ストレスに打ち克つ治療

まず免疫について説明すると、がん細胞は誰にでも普段から発生しているが、通常は免疫によって取り除かれる。ところがストレスがたまると免疫力が低下し、がん細胞が取り除かれなくなる。これががんの発症となる。

実際に来院したがん患者は、発症する前に仕事や家庭内のトラブルなど、何か強い精神的、肉体的ストレスがあつたことがほとんどであるという。ストレスのために体内的活性酸素が急激に増え、がん発症の原因になるという。そういう患者に対して、免疫療法、温熱療法、食事療法などを組み合わせて、免疫力を回復させることができ、治療の柱の一つである。特に村上院長が大事にしていることは、「笑う」と、「寝ること」だといふ。

抗酸化物質摂取の食事療法や高濃度ビタミンC点滴療法も

高濃度ビタミンC点滴療法も

質として作用するため、身体に負担をかけずにがんを治療することができる。

抗酸化物質は野菜や玄米などに多く含まれるため、日々の食事においてこれらをバランスよく食べるのが食事療法である。さらに高濃度ビタミンC点滴療法とよばれる治療法もある。これはレモン数千個分の大量のビタミンCを点滴により直接体内に流し込むことにより、がん細胞を短期間で死滅させる方法である。村上医院のケースでは、末期の乳がん患者が3カ月で治った例もあるという。

安くて良い抗酸化物質を探して

村上院長ががん治療に関わるようになつたきっかけは、若い時の研究室のボスが抗加齢医学の第一人者だったことである。抗加齢医学の専門医として研究を続けるうちに、老化心筋梗塞、脳梗塞、がん等の原因に酸化ストレスが関与していて、抗酸化物質の重要さを実感し、一般内科からがん治療への応用へと進んだという。今後安くて効果のある抗酸化物質を探して、少しでも困っているがん患者の助けになるのが村上医院長の夢である。

CLINIC data

医療法人社団 貴正会
村上内科医院

診療時間	日	火	水	木	金	土
間	○	○	○	○	×	○
夜間	○	×	○	○	○	×

診療時間 ▶ 昼間 14:00~16:00
夜間 18:00~20:00 (受付は30分前から) *点滴療法(自由診療)は完全予約制となります。

所在地 ▶ 京都府京都市山科区四ノ宮堀ノ内町1 アクセス ▶ 地下鉄東西線(浜大津行)四宮駅徒歩3分
無料駐車場有 (11台)

電話 ▶ 075-501-2551

<http://murakaminaika.com/>